

第44回 県外教学習会

「いじめをなくし、
やさしい心を育てるために」
—桐生市でおこった上村明子さん

いじめ自死と外国人差別—
ユン
～尹チョジャさん講演～

尹チョジャ(ユン チョジャ)さん

1951年、朝鮮人の父と日本人の母の間に大阪で生まれる。
民族差別を恐れた両親により、母の「私生児」として日本国籍となり日本人として育てられる。

その後小学校教員になり、川崎の在日コリアンの地域運動に関わる中で、民族名の尹チョジャを名のるようになる。

人権教育、多文化共生教育に取り組み、卒業式・入学式ではチマチョゴリ（朝鮮の民族衣装）を着用して出席した。

「民族名をとりもどす会」を結成し、改名申請裁判によって1989年民族名をとりもどす。日本の戸籍において、民族名への変更が認められ、二人の子どもを民族名で育てる。

教員生活33年間の最後の7年間は日本語（国際）教室の担当となり、外国につながる子どもたちの問題に取り組む。退職後は主に日本語ボランティア活動を行っている。



2010年、母親がフィリピン人である桐生市の小学6年生がいじめを受けた末、自死するといういたましい事件が起きました。依然として外国にルーツをもつ子どもが学校や地域で苦しい立場に立たされ、教員も寄り添い切れていないという現実が突きつけられました。

こうしたいたましい事件を決して決して繰り返さず、真に豊かな共生社会を実現していくためにも、外国にルーツをもつ子どもたちの叫び声を重く受けとめる必要があります。今回の学習会では、夏の全外教奈良大会でも報告していただいた東京都の元小学校教員で日本語講師をされている尹チョジャさんに改めて問題提起をしていただきます。

この学習会を、多文化共生や人権を考える機会とし、併せて日々の教育実践にいかしていきたいと思ひ、ここにご案内させていただきます。各郡市人教・人推協・高校を通じ、奈良県外教までぜひ参加申し込みをしてください。

◇とき◇ 2012年1月31日(火) 午後2:00～

◇ところ◇ 奈良県社会福祉総合センター ◇参加資料代◇ 1000円